



ま で い の こ こ ろ で サークル「までい」訪問記

最初の一步

2012年9月、飯館村における東大大学院農学生命科学研究科の研究協力の開始を契機として、現地に行けなくても東京で飯館村再生のボランティア活動をしようという趣旨で東大農学部ボランティアサークル「までい」が発足した。呼びかけ人は農学部職員の齋藤富子さん。最初の一步である（上の写真はサークル室ドアに掲示されている当時の呼びかけビラ）。

【カット写真（左上から時計回り）】1. 東大農学部1号館（地階に職員サークル室がある）。2. バイアル（試料瓶）を手にして説明する齋藤富子さん。3. バイアルの質量測定。4. 読み上げた測定結果をテンキーから入力。5. 勉強会①データベース入力実習（右はデータベース入力を説明する再生の会放射能分析チームリーダー・伊井一夫さん）。6. 勉強会②放射線植物生理学研究室・廣瀬農さんの放射線についての小講義。7. 勉強会③熱心に受講するメンバーたち（左から加藤、土居、丹羽、池田のみなさん）。8. 飯館村菅野宗夫さんの牛舎（この写真のみ撮影は2011年6月6日、現在建物内に試料保管庫がある）。【背景写真】測定を待つバイアルたち。

2016年3月22日午後3時30分、記者はボランティアサークル「までい」を訪ねた。メンバーのみなさんはバイアル番号の読み合わせと質量測定の真っ最中である。測定のための試料はバイアルと呼ばれる「試料瓶」に封入される。

試料の放射能の測定は農学生命科学研究科の研究室で行われる。サークルの役割は再生の会が飯館村で採取した試料を農学生命科学研究科の研究室で緻密&体系的に測定で

きるように試料と付随データを用意することである。各試料がいつ・どこで・どんな条件で採取されたものか（例えば除染の前か後かなど）網羅的に記録するデータベースづくりという「までい」（真心こめた丁寧）な作業をサークルは担う。すべての測定を終えた試料は最後に佐須の（写真8の牛舎内の）保管庫に行く。

夕刻、齋藤さん始め勤務を終えた職員メンバーが登場する。午後7時から本日のハイ

ライト・最初の月例勉強会が始まる。まずは伊井さんが指南するデータベース入力実習である。そのあと廣瀬さんの放射線の講義が続く。

午後8時半この日の予定を終えてインドカレー屋さんで遅い夕食と飲み会のひととき。御三家（齋藤・丹羽・土居）のみなさんから生命力（いのちのちから）を分けていただき記者は家路につきました。

（撮影・文責：若林一平）